

令和2年度 宮崎県立都城さくら聴覚支援学校 学校関係者評価

4段階評価 「4…期待以上である(できている)」 「3…ほぼ期待どおりである(ほぼできている)」 「2…やや期待を下回る(あまりできていない)」 「1…改善を要する(できていない)」

学校目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。					
経営ビジョン	「聴覚に障がいのある子どもたちに教育を」の本校創立の理念を踏まえ、言語力向上を基盤とし、本校の教育目標を具現化するため、聴覚障がい教育の使命を自覚し、変化する社会に主体的に対応できる「生きる力」を育て、創造性豊かな活力のある教育を推進する。					
評価項目	評価指標	自己評価	保護者評価	学校の自己評価（成果・課題等）	学校関係者評価	学校関係者からの感想並びに提言等
1 学力の向上と多様な進路実現	① 児童生徒は学校に行くのを楽しみにしていると思いますか。	3.4	3.4	○ 度重なる臨時休業の状況でも、子供たちが学校生活を楽しみにしている様子も伺われ、喜ばしい結果である。今後も、学校生活を楽しみにする魅力ある学校づくりに引き続き取り組んでいきたい。	4	1 新型コロナウイルス感染症対策について ○ コロナ禍での教育実践は大変な苦労があったことと推察する。その中で、子供たちのために何かしてあげたいという職員の気持ちは十分伝わってきた。 ○ 感染症対策について、学校が安全のため日々懸命に取り組んでいる様子が十分に伺えた。 ○ 文化祭は、学部単位で分散開催した点がよかった。 2 教育活動について ○ 幼稚部から高等部までという幅広い年齢の幼児児童生徒の成長を、「大きなものさし」で捉えることができる学校そのものの特徴をいかした取組が、日々実行されているのを随所で感じる事ができた。 ○ 創意工夫された環境があり、学校が醸し出す空気
	② それぞれの授業において、学力向上を意識した指導が実施できていますか。	3	3	○ 日々意識して取り組んでいるが、今年度は保護者に授業を参観してもらう機会がほとんどなく見えなかったように思う。三密やソーシャルディスタンスなどで安全が確保できるようなら、可能な限り保護者が参観できる機会を設定していきたい。	3.3	
	③ 子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	3.1	3.1	○ 子供たちの実態や理解度を確認しながら分かりやすい授業となるよう取り組んだ。しかし、②と同様日々の取組や指導の様子が見えなかったように思う。聴覚障がい教育の専門性に関する研修を重ねつつ、日々子供たちにとって分かりやすい授業となるよう工夫していきたい。	3	
	④ 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善が実施できていますか。	3.1	3	○ 日々の各教科等の教材教具の工夫や改善には取り組めたが、ICTについては活用に差があり、まだ効果的に活用するまでに至っていない。オンライン授業の導入など課題もあるため、引き続き取り組んでいきたい。	3	
	⑤ 学校と家庭が連携した効果的な指導が実施できていますか。	3	3.1	○ 参観日中止の影響で、家庭と直接話し合う機会がほとんどなく、学習内容の説明や取組状況等の情報伝達が不足した。コロナ禍でもあり直接対面でのやりとりが難しい状況ではあるが、学級通信や連絡帳などの情報伝達手段を今一度見直し、協力・連携しながら学校と家庭と共同歩調で子供たちを育てていきたい。	3.3	
	⑥ 個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	3.2	2.8	○ 学級・学部単位では実施できたが、今年度は、コロナ禍で保護者参加型の進路に関する講演や研修などが軒並み中止となり、進路に関する情報が学校内に止まり、保護者へ伝達不足となってしまったように思う。今後は進路関係文書を配付するなど、積極的に発信していくようにしたい。	3.3	
	⑦ 職業理解のための情報提供、進路相談等が実施できていますか。	3.1	3		3	

2 人権意識の向上	① 人権の意義・重要性が理解できるようになる指導ができていますか。	3.2	2.9	○ 学校経営重点目標に「自分と異なる価値観を認める心、お互いを尊重し認め合う心など、心の育成をはかり、幼児児童生徒が存在感をもって生活できる生き生きとした学校づくり」を掲げ日々取り組んできた。子供たちは、コロナ禍でも仲間意識をもちながら仲良く学校生活を送ろうとする様子が見られる。一方、相次ぐ臨時休業による子供たちの心の問題の状況や実態について把握に努めているが、これから指導が必要となるケースが生じる可能性も想定される。引き続き子供たちからのSOSを見逃さず、注意深く観察しながら状況に応じ指導していくようにしたい。加えて、いじめの未然防止や人権意識の向上にも引き続き取り組んでいきたい。	3.3	感から日々の努力を感じた。 ○ 生徒たちの自主的な取組における成果を、大いに感じられた。 3 努力事項 ○ 生徒数の減少については、学校のよさを積極的に外部にアピールする場を設けていく必要がある。 ○ コロナ禍でもあることから、今後ICT機器の活用を積極的に取り入れながら学習活動を展開していく必要がある。 ○ ICT機器を活用した授業づくりに向けては、職員のICT技能の向上が不可欠である。そのため、ICT技能向上研修(外部講師による講演や実技研修等)を実施していくことが重要であると思う。 ○ 幼児児童生徒の自己理解(自分の困りを相談したり、必要な支援や配慮を発信する力など)を高める取組に期待したい。
	② 自他共に人の大切さを認めることができるようになる指導ができていますか。	3.3	3		3.5	
	③ 自他への大切さが、具体的な態度や行動に現れるような指導ができていますか。	3.1	3		3	
	④ 自他の人権を守るための行動につながる指導が実施できていますか。	3.1	3		3	
性3 の向 専 上 門	① 障がいの実態に応じた指導が日々実践できていますか。	3.3	3.1	○ 障がいの実態把握を十分に行いながら、教育的ニーズをくみ取りつつ日々の指導に努めてきた。障害の状態が変化することもあるため、今後も家庭と連携しながら、子供たちの指導に当たってきたい。	4	
4 聴 と 地 域 支 援 が い 児 の 推 進 早 期 教 育	① 教育相談体制の充実を図る取組が実施できていますか。	3	2.9	○ 校内支援については職員間で連携しつつ取り組めたが、地域支援については、新型コロナウイルス感染症対策に伴う外出自粛により、訪問する機会が極端に減少し支援が十分に行えなかった。今後もこのような事態も想定し、オンラインサポートの活用なども早急に模索していきたい。	3	
	② 地域に、学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	2.8	2.5	○ 前半は手作りマウスシールドや部活動紹介のテレビ放映や新聞掲載など広く地域に情報提供できたが、後半はほとんどなかった。ホームページも行事中止の関係で新型コロナウイルス感染症対策に関するお知らせが多く教育活動に関する発信が不足しがちだった。今後はホームページの啓発を図りつつ、積極的な発信に努めていきたい。	2.5	
5 そ の 他	① 施設や学校設備(遊具含む)の整備や環境美化が十分なされていますか。	3.1	2.9	○ 施設については、危険箇所を撤去したり職員に素早く周知するなど、子供たちの危険回避に努めた。今後も事務部や関係部署と連携しながら、遊具や施設の安全を徹底していきたい。	3	
	② 災害への対応や緊急時の対応が整備されていますか。	3	3	○ 今年度は災害の発生もなく、緊急対応をとる場面がなかった。しかし、災害はいつ起こるかかわからないため、全職員で危機管理マニュアルを再確認し、災害発生時には適切かつ迅速に対処できるようにしておきたい。避難訓練の見直しは、随時行っている。	3.3	